

建設産業委員会会議録

平成25年2月26日（火）

午後3時05分 開会

○山本半治委員長

委員会を開会します。先日実施しました県内視察の意見集約を行います。意見を取りまとめたものは、皆様にお配りしてあるので、目を通していただいていると思いますが、今日は皆様からの、意見を読んだ感想や付け加えたいことがあればと思い集まっていただきましたので、ご発言をお願いします。まずは、刈谷市を視察した件について、ご意見があればお願いします。

○鈴木幸彦委員

記載をさせていただきましたが、他の方の意見もありましたが、ブロック塀の改修や取り壊しでも補助が出るということで、確かに町の中を見ると危険なブロック塀、通学路に面したブロック塀も多くみられますので、これに関しては目新しいというか、興味を持ったところがございます。

○山本半治委員長

私もざっと目を通させていただいたんですけど、ブロック塀のことは、皆さんなかなか参考になるかなという意見が多かったですね。

○沢田清委員

耐震改修費が120万円という補助で、取り壊しの補助金が20万円というこのバランスがだいぶ違うのを感じたし、刈谷市さんは非常に裕福なのかなという感じを受けました。あまりせこせこしてない、ゆとりがあるような気になりました。

○山本半治委員長

皆様のご意見を集約しますと、解体にお金を出す方がいいなという方もいらっしゃるんですけど、半田市で考えた時に、それが半田市に当てはまるかなという意見の方も、半々くらいですから、その辺のところをちょっと意見集約ができればなと思いますけど。

○新美保博委員

視察行って、こういったレポートを出すのはいいことだと思っているし、去年くらいからやりだしたことだと思っているんだけど、これは個々の意見だから、これを透かして見ると同じ事を言っているなら、まとめようとしているわけだから、たたき台としてまとめたらこういう形になって、これは消せばいいんじゃないかとか、ここは表現をこうした方がいいんじゃないかとか、そういうところから持っていった方がいいのかなと。例えば今でたところのブロック塀の撤去について入れる人と、これは必要ないんじゃないかという人もいるだろうと。例えばブロック塀だと半田市の場合だと生垣の補助金をやっているよと。それとブロック塀と一緒に載せようとか出てくると思うので、今頃言ってもどうしようもないけど、できればアバウトでいいからまとめたもので、ちょっと議論がしたいなと思ったのがひとつ。それと刈谷市の場合、個人的な意見を言わせてもらえば、やっぱり住む人が違うなということが一番感じたので、そうすると半田市で何ができるかという、そういう意識付けをすることの方が大事かなと。制度だとかそういうものを作るよりも、みんながお互い様だから、やらなきゃいかんなど。隣の家がやっても、なんで隣の家がそ

んなことをやるの、じゃなくて、そうだよねという意識付けが大事かなということを感じました。せっかく行ったのに、当局の部長さんや課長さんの意見が記載されていないんだけど。

○山本半治委員長

それは求めておりませんので、今日お聞きしたいと思います。新美委員の言う意識付けというのは、市民の方たちがそういう危険な家に対して、やっぱりなんとかしないとという意識付けということですか。

○新美保博委員

先ほど、沢田委員が言われた通り、費用の差が随分ある。百何万と20万円だったかな。どうだろうねという話をしたときに、避難するのに倒壊してみんなが避難できないんじゃないかって迷惑だよねというところを、みんなが意識として持っていれば、例えば瓦でも、風が強い日に自分の家の屋根が飛びそうだとしたら自ら修理をしていく意識というのは大事だと思う。そういうところがあったから、そこへお金を投資しても他の人も、明日は我が身ということを考えれば、そのお金をなんで個人の家に出すんだなんていうところはあまり意見がなかったということを知った気がしたので、そういう意味で書きました。

○中川健一委員

書いてある通りですので、特に追加することはないんですが、他の人の意見もざっと見た感想として申し上げると、いろんな意見があると思いますけど、私の意見としては、税金を使って、どこまで行政がやるべきかということをもう少し考えた方がいいんじゃないかなと。この解体費用というのは、本来税金を使ってやるべきものなのか、やらなくてもいいことなのか、そういう観点でもう少し考えてみると、またちょっと違う見方も生まれてくるんじゃないかなというふうに思いました。私はやめた方がいい。税金使ってやるべき事業じゃない。低所得者は別ですけども、低所得者を除いた一般の人については、税金を使ってやるような事業ではないし、もっと他に税金を使ってやるべき事業がありますので、半田市は刈谷市と同じようにやらない方がいいなと思っています。

○成田吉毅副委員長

刈谷市の場合は、空き家対策というよりは、耐震の方から派生して出来たものなので。我々が今研究テーマとしてやろうとしていることは、空き家になっているような、住んでないところが、どういうふうにしていったらいいのかっていうことがテーマではあると思うんですよ。住んでいても老朽化しているところですね。ちょっと視点が違うかなと思うんです。我々がやろうとしていることと、視点が違うかなと。ただ目指すところは、目的地は同じなんだろうけど、最初のは入口が違って、結果としてそれがなくなっていくのであればいいんでしょうけど、それが先ほど新美委員もおっしゃられたように、意識の問題なのかなと思います。20万円ではたして壊そうかと思うかどうかとってところであって、20万円出したら壊すっていう意識があるのであれば、最初から壊すでしょうし、ちょっと難しいなと思いました。ただ、入口としては、こういうやり方もありなのかなと思いましたけど、いきなり老朽化のところを何とかするというよりは、耐震とかそういった安全面、ブロック塀もそうですけど、安全面で、あなたのところの建物はちょっといかによという意識をつけさせる。だから耐震補強は難しいから、壊そうか、じゃあその時は補助出してあげるよというような感じですよ。そういう意味ではありかなと思います。

○山本半治委員長

そういう流れですよ。耐震診断で補強のお金は出してあったけど、なかなか進んでいかないから、このままじゃいかんって言って、ブロック塀だとかこういうものが出てきている。

○笠原健次建設部長

刈谷市さん視察させていただきまして、やはり考え方が耐震化率を上げるためにきっかけというような形の補助制度の考え方かなという感じは受けました。本市も基本的には耐震化率を上げたいという気持ちはあるんですけど、現実には空き家ということで、近所の方、通行する方にあきらかに危険を及ぼす建物という考え方でいたもんですから、ちょっと考え方が違うと感じました。あと、ブロック塀につきましては、確かに危険でもありますし、特に交差点角地にブロック塀がされていると、交通事故だとかそういうことにもなりますので、いい方策かなと思うんですけど、それをどこまで行政が補助を出すのか。例えば、今半田市生垣条例をやっていますので、そういった中でブロック塀を生垣に変える方については、若干ですけども、1メートル当りの単価が、2千円から3千円上がるというような施策をやっているもんですから、その辺との兼ね合いもよく検討しないといけないかなと思いました。

○小暮岳志建築課長

私が感じたのは、実際に老朽化建築物の取壊し等の通報があったことに対して、実務としてやっている立場として、所有者等にお問い合わせに行っても、なかなかやっただけないことも多々ありますので、その辺を考えた時に、非常に刈谷市さんは耐震改修よりも若干高い数値で除却が行われている実績がありますので、半田市においてもちょっと取り入れた方がいいのかなという思いはあります。ブロック塀につきましても、今の生垣に対する補助もそうですが、ブロック塀に対しても補助を出すという考えが成立するなら、両方とも同じ考えではないかと私は思っています。

○山本半治委員長

今の話を聞いたうえで、何か質問はございませんか。みなさんの意見を取り入れて、まとめさせていただきたいと思います。

○新美保博委員

このテーマを取り上げた時に、一番最初に言ったような気がするんだけど、要するに空き家というもの、老朽化した建物という定義がものすごい難しいと思う。それから、人のものだから、今はたまたま人が住んでいない。明日住むかもしれない。そういったところの空き家の定義。人の家に対して古いなんてことが言えるのかなと。ましてや、例えば近くの人に言うならまだしも、行政が市民の財産に関して古いから壊せなんてことが言えるのか、この定義が難しいと思う。それで勉強してきたんだけど、定義することが難しいと。ただし、例えば危険がある、耐震化率をあげないといけない。耐震しないことで危険があるだとか、そこに誰かが住みついちゃうとか、いろんな問題があるから壊してもらうとか、何かの手立てが必要だというところはおさえておきたいなというふうに思う。そういう方向にちょっと変えないと、このまま行ってしまうと、まだまだどこまで飛んでいくかわからない話になってくる気がするんで、どこかでそういったような、勉強したことが悪いわけじゃない。勉強したことによっては、わかったことがあるわけだから、それにつ

いて、逆説とは言わないけど、ちょっと方向を変えることも必要なのかなというふうには思っているので、そのような取りまとめ方でいくといいのかなと思っています。

○山本半治委員長

ありがとうございます。続きまして、一宮市の意見交換をしたいと思います。どのかたも、相手方の専務が最初に、不動産屋だと言ったことがその通りだと思った方が多いように思いますが、ご意見あればお願いします。

○鈴木幸彦委員

皆さんのを見せていただいて、どこも、今回見せていただいた一宮地方総合卸売市場も、知多南部卸売市場もそうなのですが、活気があってしょうがないというところはないと思うんですが、アイデア次第で、ここで言うと日曜新鮮市というようなことで、本当に工夫次第かなということを思いましたので、知多南部卸売市場も生き残っていくのであれば、斬新なことを考えていかないといけないのかなと思いました。

○沢田清委員

同じですし、日曜新鮮市をそのまま半田市に取り入れようとは思いません。あれだけ忙しい状態になるし、もう少し他の考え方もあるのではないかなと思いましたけども、今の知多南部卸売市場の状況は何もないみたいな感覚になっているのは私だけじゃないと思いますけど、市場で働いている人たちは一生懸命だと思うし、そこでのギャップを詰めて活かそうとするのが、この委員会でテーマに取り上げた理由だと思うので、なんとかしていかないといけないのは思いますけども、何がいいのかはもう少し勉強させていただきたいなと思います。

○中川健一委員

僕は沢田委員とは意見が違って、日曜新鮮市くらいはやってくれと。忙しくてしょうがないんだったら、他に仕事があるからできませんということはわかるんですけど、ぜんぜんそんなことは実態としてないわけなんですね。ここに僕も書きましたけど、2010年の9月議会で市場開放やってくださいということも再質問の中で言ってるんですけど、特にその後何もやってないわけなんですね。当時は条例でできないということ、平場で、担当者の人が言って、僕はそれを鵜呑みにして難しいのかなと思っていた時期もあったんですけど、やれることをもう少しやらないといけないのにできてない。できてない理由は何かっていうと、行政が主体的にやるという、売上を増やす、不動産業とおっしゃってましたけど、売上を上げる仕事を行政が主体的にやるということに無理があると思いますので、はやいところ経営権を民間企業に譲って、筆頭株主であっても構わないんですが、経営は民間の人がやる方向に変えていかないと、知多南部卸売市場の再生は無理じゃないかと考えています。

○渡辺昭司委員

どこも財務状況がいいところがないんだなというのが率直な印象です。不動産屋だと言われましたが、知多南部卸売市場の状況で入っていただけたところがあるのか、首をかしげてしまいそうな感じなので、その中でもどういう発想で何をやっていくのかっていうようなことが、いろんな意味で行政で限界が来ている状況なのか、そういったことを含めてはやめに結論を出さないと、どんどん市に負担が出てきちゃうようなことがあるのかとか、どの程度までやるのかということをはやめに、きちんとしていかないと、議会として

提言をするのか、当局の方にも考えていただくのかっていうような決断が必要かなと思います。

○成田吉毅副委員長

先ほどから話が出ている不動産業ということであれば、民営化が一番いいんじゃないかなと思います。一宮市に関しては、いろいろ現状で努力が見られますので、そういった努力もされていく必要があるのかなというふうに思います。2つの視点から考えても何らかの抜本的な改革をしていかないといけないんじゃないかなと思います。

○新美保博委員

ぶっちゃけて言えば、とっととやめちまえというのが本音のところですよ。ただ、市場というものが無くていいということにはならないと思っているので、市場を何らかの形で残さないといけないけども、今の形で残す、今の考えている形がいいのかなという、必ずしもそうじゃないな。そこで出たのが、一宮市。一宮市と大手3社だったかな。結局、おそらく株主を、最大株主が一宮市でやっている。もう1つは、館林市は全部買ってしまって、それを貸しているところの、やり方だと思う。さっき中川委員が言ったように、半田市は筆頭株主でいて、社長は任せて、経営も任せる。何年かは辛抱しなきゃいけないし、たぶん黒字になるのはいつのことかわからないけども、そういう形を取ることなら、またそれは1つの考え方であろうかと思うけども、であるなら、今の知多南部市場はきっちり精算してもらわないと、精算した段階でスタートしないと、それは難しいなというところでは、やり方だと思う。単純に、市場を残すのか残さないかが第一義だと。無くしたことによって、市民の人たちに、それからいろんなところに影響がある。これを無くせない。まず決めるか決めないかだと思うんだよね。今までの経過を踏まえて、無くせないということであれば、どういった形でやっていくのが一番いいのか。みんな別に赤字のために動いているわけではないわけだから、きっと黒字にしたい。何らかの形でプラスに転じたいと思っているけども、その方法がもし見つからないなら、それは見つける算段をしないと、ここだけで話をしてもおそらくだめだろう。行政だけでもだめだろうし、当事者だけじゃもっただめだよね。今までの経緯から行けば、ペケポンがみんな揃ってやっているんだから、そりゃだめだと思うので、それは何らかの形で、また意見を言ってもらえる会を作ってでもそういうことがやれるというのは、これは手段だと思う。この手段をそろそろなんらかの形で、この委員会で、こうするといいよっていうことがなかなか、たぶんそれぞれの思いはあっても言えないというのであれば、こういうことをしたらどうだろうと言ったところの提案が出来るようなところを探り出したいなと思っています。

○山本半治委員長

ちょっとお尋ねしたいんですけど、やっぱり一宮市がすごかったのは、空き店舗が少ない。あれはやっぱり半田市も、今までもそういう努力はしたと思うんだけど、一宮市と形態が、スーパーが入ってくれていたり、半田市では難しいと思うんだけど、今までそういう努力はかなりしてきてるわけですよ。それ以上は難しいというか、その辺の、新美委員が言ったとおり結論を出すためには、頑張ればあそこが使えるようなことがあれば、それは頑張らないといけないと思うんだけど、その辺はどうなんですか。

○近藤恭行市民経済部長

今のご質問も含めて、全般的なことでもよろしいですか。今回一宮市が非常にスタートが良かったと思うのは、テナントと呼んでいる店舗がはじめから小売りをやっていた。毎日でも小売りが出来るという状況が、テナント店として残っているメリットの1つなのかなと。知多南部市場を見ていただくとわかるんですけど、知多南部市場は、小売りをやってないの、テナント店と言っていないで、関連事業者と読んでいますけど、関連事業者はあの市場の中に店を構えているというか、そこに入っているわけですね。一般小売りも当然されていないというような状況の中で、あそこに人を呼んで来るというのが、正直非常に難しい状況があった。一宮市を見に行くと、確かに、市場本来の建物と、テナントがわかれていて、この作り方が非常に、まずいいなと。日曜新鮮市をやっているメリットが、まさにその不動産業として、どういうメリットを出しているんだろうという部分が一番課題だなと思って見に行ったんですけども、少なくとも日曜新鮮市を開くことで、テナントのところに多くの市民が買いに来れる状況が出来ている。結果として市場として、月一回のことですけど、大きく売り上げにつながることはないと思うんですけども、テナントの売上につながって、結果としてテナントが出ていかない。そういう状況が出来ているので、非常にいいなと思います。委員長が言われたように、努力をしてきたんだよねと言われて、正直私の立場では、よくわからない部分があります。関連事業者を入れ込むのは、ちょっとなかなか難しい状況があるのかなと思います。じゃあ見に行くと何にも役に立たなかったのかとういこと、実際日曜新鮮市は駐車場が開いていて、尚且つテナントだけ売っているわけではなくて、募集をして、そこに一般の小売の方もお見えになって、やっているということであれば、例えばの話ですけど、私自身がどうかかなと思っていたのが、あそこに入っている関連事業者だけが、小売りが出来るよという状況であれば、市内の一般の小売店から不満が出ると思うんですけど、小売店まで声をかけて、こういうことをやりますので、参加しませんか、と一旦声をかけて、そうしたものを開催すれば、少なくともそういう不満は無くなるのかなと。もう1つがその、駐車場の利用もそれのできるのかなと思いますので、簡単な話ではないと思いますが、これを課題に検討はしていきたいと思います。

○山本半治委員長

じゃあ、例えばあそこに小売店をいれるということが出来るという可能性は。

○近藤恭行市民経済部長

常時小売店を入れるというのは、逆にまったく無理だとは思っていませんけど、相当ハードルが高いと今は思っています。ハードルというのは、場所もありますし、実際に募集をして小売店に入っていたらどうか。やっぱり買いに来る方はいろんなものが買える。市内の価格よりも安価で買えるというようなことがあれば集まると思うんですけど、なかなか建物の中で、今薄暗いようなところに関連事業者の店舗があるものですから、そうしたことを考えると、普通に募集をして、出てきていただけるかどうかという部分では、相当な不安は抱きます。

○新美保博委員

小売店が来てくれるとか、そういう心配はまず無理だと思う。そこから入っちゃうと、何もできないと思うんだよね。みんなを呼び込む方策を作っておいて、そこに、それなら常時小売店を置きたいなという思いに、今からこれをしていかないといけないと思う。と

ころが、ここに小売店を開きたいとなっても、ここには無理ですよと。建物が無理じゃなくて、市場法で、法律で、ここにはやっちゃいけないと言われれば、こんな話は無くなっちゃう。だけど、他の市場ではやっているのに、なんでっていう問いかけになった場合に、どう答えるのかってこと。そういったハードルがあるのかどうかと聞いたわけ。

○近藤恭行市民経済部長

今手元に資料が無いのでいけないんですけど、市場法の中で基本的な市場は、卸売をやる場所であって、小売りをやる場所じゃありませんので、無理だというふうに考えています。じゃあ他のところはどうやってやっているか。この間、一宮市確認をしてないのでいけないんですが、おそらく線が引いてあるのかなと。テナント店と卸売市場との間に線が引かれているんじゃないかと思います。一般的によく知っているところだと、築地市場なんかもそうですよね。本当の市場部分に一般の買まわれる方は入って来ない。でもすぐ隣に場外市場があって、そこでは一般の人が買い物ができるということができてますので、そこを上手に線引きが出来れば、小売店が入ることもできるのかなと思います。

○新美保博委員

だから、いい悪いは別だよ。例えば南部市場の北にあったよね、建物。それから、倉庫みたいなやつ。あそこで、あそこを小売店舗にして、線引きすればいくらでも出来る話であろうと思うし、例えば今の市場の中の半分で、小売りと分けたって、やろうと思えばやれるわけ。やらなかっただけの話。今、小売店開けますから来てくださいって言ったって、正直言って無理な話。だからあそこにはかに人が集められるか、そこで集まった人たちが、いろいろ安く買って帰っていきける。そうすると小売店が、うちも小売店としてここにお店を置いてもいいなっていう逆をやらないと、今小売店を作ったから、お客さん来てください、買ってくださいじゃなくて、何でもいいから一回行って、あそこは便利だ、なんでも買える、安く買えるっていうことをやらないと、その方向をどうつけていくかだと思う。それが、いくら半田市とあそこが一緒になったところで、やれるかと言ったら、100%、100%っていつちゃいけないね。99%にしとこう、可能性を残して。あの社長では無理だわ。もっと頭の柔らかい発想を持って、もうお金で目がざらざらした人にやらせたって、意味がない。そういう発想を変えないと。今言った、逆の発想。これが逆だとは思わないけど、結局は市場が生き残れて不動産業がやれるのは、小売店が来て、そこでテナント料を落としてくれるかどうか。あがりには確かにあるよ。さばいた荷のあがりはあるとしても、そんなことは当たり前の話で、あの建物をいかに使っていかかという、そういうことになってくると思う。尚且つ今の市場は、暗くて汚い壊れそうな建物で、直していかないといけないわけだから、そのお金だって、先行して投資するのか、ある程度貯めてからやるのか、方向だけでもやっぱりつけないといけない。そうした時に、やっぱり結局は、人が行かなきゃ、人が行って物を買わなきゃ、動かないわけだから、そういう方向をつけていかないと。それを他に行って見てきたわけだから。他が100%だとは思わないけども、半田の南部市場よりは、少し、進んでいる、やっているなということは感じているので、それがやればやれた方がいいのかなと思うけどね。だからそういうことをここで提言が出来れば、一番いいのかなと思っています。

○伊藤浩卓農務課長

視察をさせていただきまして、まずやはり市場の作りと言いますか、卸売とテナントの

区分けされているのを見て、やはり知多南部市場とは違った形で作られているなどということで、そういった利点を上手に考えて、朝市とかがうまくいっている部分はあるのかなど感じております。ただ、南部市場の形を大きく変えるまでなかなかいけないということであれば、現状のものは今のお話の中で、こういった形で活用できるかっていうのは、今後の考えていく課題の1つでもあると思っていますし、テナントの入居数もやはり、大きなスーパーに借りていただいているということもあるので、そういったところでも、入居者の内容と言いますか、こういった人たちに入ってもらえるかということも検討していかなくちゃいけないなどということも感じたことであります。

○山本半治委員長

いろいろご意見いただきましたので、みなさんの貴重な意見をまとめてですね、また提示したいと思えます。ちょっと時間をいただきまして、それから方向を決めていきたいと思えますので、5月の臨時会での報告になりますのでね。

○新美保博委員

一宮市の市場って、仲買人が来て競りをやるってことはほとんどなくて、電話一本で、明日は段ボール何箱ね、キャベツ何箱っていうオーダーを取っちゃって、それを準備しているだけって聞いたの。はっきり言うと、中継基地の倉庫みたいなものなんだわ。あれも市場というんだよね。奥に加工場があって、いちごとか詰めてたよね。だから、知多南部市場がそうなれとは言わないよ。あの形が市場として成り立っていくんだったら、十分違うやり方もやれるような気がするんで、そこらもつぶし考えてもらえると、もうちょっと。競りなんてほんの限られたスペースでしかやってないって言うんだから。だとするともう少し市場というものの在り様も考えるべきかなというふうに思ってる。この段ボールが、パレットに乗ってるのを、どこに行くのって聞いたら、どここのお店に直行で、トラックの運転手が来て、つんで持っていっていただけだ。そうすると人手もいらない。自分たちが置いておくだけで。持ってきた人が自分でそこに置いておくだけ。持っていく人は、自分で持っていって。そんな簡単っていうか、楽な市場は、それが市場と言えるのかというところもあるんで、不動産屋としてはそれが一番楽だよ。そういう在り様もあるんで、もう少し検討した方がいいのかなと思いました。

○近藤恭行市民経済部長

参考までですけど、知多南部市場で卸をやっているのが、知多総合卸売市場という卸売会社がやっているんですけど、今おっしゃったように、あらかじめ注文を受けて、入荷をして、それをそのまま業者が持っていくというやり取りもやっています。ただ、非常にあれほど極端じゃないです。まだ競り売りをやっていますので。

○中川健一委員

僕ちょっと皆さんの意見を多少伺って思ったんですけど、確かに日曜新鮮市みたいなことは、現時点でも経営努力として半田市にやるように促していくことが必要だと思うんですが、やっぱりこの問題は、そういうレベルではなくって、半田市が中心になって、主体的に市場を運営していくのか、公設民営、完全民営化して、株は持っていてかまいませんよ、別に。財務省がJTの株を持ったりとか、そういうこともあるので、構わないんですけど、とにかく経営の人が民間でやっていくということに、するのもしないのかっていう、もう少しそこを研究するようにした方が、半田市の税金の無駄遣いを減らすことに

つながるんじゃないかなというような感想を、今の議論を聞いてて思いました。細かいことは、僕ら言ってもなかなかね。反映しにくいってこともあるし、経営者次第で変わるってこともありますので、そういった議論が出来たらもうちょっと有効じゃないかなという感想を持ちました。

○近藤恭行市民経済部長

今ここまで行ってきた部分のご紹介をさせていただきます。1市4町に出資をしてもらって、経営から退いていただきますよという説明をさせていただいてきてますけども、実際の日にかが、昨年12月25日に1市4町と等価交換契約を締結いたしました。翌日12月26日にすでに一部分の土地に関して、1市4町の所有ということで、所有権の移転登記が終わっております。それから、年が明けまして、1月中旬に1市4町から役員の辞任届、これはばらばら出てきますので、概ね中旬ですけど、役員の辞任届を出していただきました。2月1日に臨時の株主総会を開催しまして、1市4町的首町、役員の辞任の承認と新しい取締役、監査役の選任を行っております。参考までに取締役としましては、半田市では、半田市長、市民経済部長、農務課長、監査役で会計管理者の4名、知多総合卸売市場側から、会長、それから社長と専務の3人に出ていただいて、現在は7名体制の取締役会という形になっております。今のところここら辺が決定をされてます。今後ですが、今現在1市4町から、もちろん半田市も出資をしていますので、また1億円をおおきくはねる資本金額になっておりますので、この後、減資というのを実施して、出資金を1億円以下の大企業ではない形にします。それから少し触れていただきましたけども、平成25年度予算で債務負担行為を設定しております、それは5億円という金額で設定をさせていただいています。その5億円とはどういうことかと言いますと、今現在短期の借入金3億円あります。それ以外に不測の事態に備えるための借り入れの枠として、2億円という枠を設けまして、合計5億円という債務負担行為を計上させていただいています。これは新年度予算で審議いただくこととなります。今のところ決まっているのはこれくらいです。

○新美保博委員

知多総合が5千万円のうち4千万円が未納だよ。このことは、いつになったらきれいになるの。できないの。やっぱりきれいにしなきゃいけないと思う。半田市と2人でつくったわけだから、だとするとやっぱりリスタートするのに、こっただけ甘やかしてというか、言葉ではそうなっちゃうかもしれないけど、やっぱりちゃんとゼロ出発するなら、しなきゃいかんと思うんだけど、その後についてはどうなの。

○近藤恭行市民経済部長

今ここで確定して、こうなりますと申し上げるところまで詰めていませんけど、今4千万円出資していただいてませんが、その金額まで含めて、先ほど中川委員が言いましたけど、公設民営化にもっていきたい。そういう債務まで含めて、なんとか知多総合さんに受けていただきたい。そういう調整を今後やってきたいと思っています。

○新美保博委員

公設民営化とか、そういう方向をいずれはつけなきゃいけないと思うんだけど、公設民営ってどっか見たところあった。公設民営でやっているところあるの。例えば今までのこの委員会で見たところ言えば、館林市はそうではない、一宮も違うし、公設民営でやったってとこってというのは。

○山本半治委員長

しばらく休憩します。

午後3時50分 休 憩
午後4時00分 再 開

○山本半治委員長

再開します。その他に何かありましたらお願いします。

【発言する者なし】

ないようですので、これで建設産業委員会を閉会します。

午後4時01分 閉 会